

小笠原航空路開設推進特別委員会速記録

平成28年12月13日（火曜日）午後2時開会

出席委員（6名）

委員長	一木重夫君	副委員長	清水良一君
委員	稲垣勇君	委員	杉田一男君
委員	鯉江満君	委員	安藤重行君

委員外出席議員（1名）

議長	池田望君
----	------

出席説明員

村長	森下一男君	副村長	渋谷正昭君
教育長	松本隆君	総務課長	セーボレー孝君
総務課 企画政策室長	樋口博君	財政課長	江尻康弘君
村民課長	村井達人君	医療課長	佐々木英樹君
産業観光課長	牛島康博君	環境課長	深谷雪雄君
建設水道課長	篠田千鶴男君	母島支所長	湯村義夫君
教育課長	持田憲一君		

事務局職員出席者

事務局長	大津源君	書記	萩原佳代君
------	------	----	-------

議事日程

- 日程第1 小笠原航空路開設に関する経過報告及び今後の対応について
- 日程第2 その他
- 日程第3 閉会中の継続調査について

◎開会の宣告

○委員長（一木重夫君） ただいまから小笠原航空路開設推進特別委員会を開会します。

出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午後2時）

◎会議時間の延長

○委員長（一木重夫君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。

◎説明員の出欠について

○委員長（一木重夫君） 次に、説明員の出欠について事務局長に報告させます。

○事務局長（大津 源君） ご報告いたします。

本日の委員会の説明員は、全員が出席との通知がありました。

以上でございます。

◎小笠原航空路開設に関する経過報告及び今後の対応について

○委員長（一木重夫君） それでは、本日の議題に入ります。

日程第1、9月定例会以降の小笠原航空路開設に関する経過報告及び今後の対応について、執行部から報告を求めます。

総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） それでは、前回の委員会以降の動きにつきまして、報告をさせていただきます。

まず1点目、村長の陳情活動その他でございます。

来島視察が2件ございました。

10月8日、小池東京都知事が来島されまして、候補地である洲崎を視察されております。同じく、10月22日、小笠原諸島振興開発審議会委員2名の先生がご来島され、候補地の洲崎を視察いただいております。

2点目の報告ですが、11月24日、自民党本部におきまして、小笠原を応援する会が開催されました。

議題が2つございましたが、平成29年度予算の概算要求の概要につきまして、関係省庁か

ら報告がございました。2つ目は、東京都から、小池東京都知事の小笠原への来島について、報告がございました。

出席者につきましては、田中和徳先生、小野寺五典先生、金子恭之先生、鴨下一郎先生、宮腰光寛先生、盛山正仁先生、石原宏高先生、佐藤正久先生、丸川珠代先生、江島 潔先生、国会の先生方は、この10名でございます。

関係省庁のほうは、国土交通省から、国土政策局長、それから特別地域振興官、航空局からは、局長のほか、空港施設課長、それから海上保安庁からは、長官、それから政務課長、また環境省からは、自然環境局長、国立公園課長、その他自然遺産専門官のご出席がありました。

また、東京都からは、多羅尾総務局長、それから山口多摩島しょ振興担当部長がご出席されました。

2つ目の報告でございます。国・東京都に関することでございますが、1点目が、11月16日に開催された衆議院国土交通委員会で、松原 仁先生が、小笠原空港に関して質問をされているところでございます。急病人への対応等のため小笠原に空港が必要と考えるが、空港実現に向けた国交省の取り組みを伺いたいという質問でございます。

石井大臣が答弁をなさっております、小笠原諸島の交通アクセスの改善は、これは島民生活の安定、離島振興の観点から非常に重要な課題であると認識していると。現在、事業主体である東京都が3案で検討しており、東京都が進める検討に対して、国土交通省として滑走路の配置あるいは航空機の運航の安全に必要な空間の範囲など、技術的な助言を行っている。また今後、東京都と連携し、早期に一定の方向性が出せるよう取り組んでいくという趣旨の答弁がございました。

それから、2点目、東京都議会第3回定例会におきまして、10月4日に行われました代表質問では、公明党の東村邦浩先生から、小笠原航空路に関する質問がございました。質問は、都は、飛行場の設置主体として、国と連携して小笠原航空路の開設に取り組むべきと考えるが、知事の見解を求めるという趣旨でございました。

小池知事のほうからは、小笠原の航空路開設は、民生安定と国境離島である小笠原諸島の自立的発展を図る上で極めて重要だと認識していると。知事も航空路の開設が小笠原村民の切なる願いであることは十分承知している。その一方で、小笠原航空路開設に当たっては、自然環境との両立あるいは財政面、就航可能な機材の確保など、さまざまな課題があると。このため、国や村など関係機関との調整を緊密に、かつ丁寧に行うとともに、幅広

い視点に立って、課題に関する調査を実施していく。知事自身も現地に赴き、島内の状況をしっかり確認したいと。また、今後調査結果や関係機関との調整などを踏まえて、世界自然遺産である小笠原で実現可能な航空路案が取りまとめられるよう、国からの支援、協力も得ながら、精力的に検討を進める旨の答弁があったところでございます。

3点目の報告、村に関するところでございます。

1点目が、今年度の小笠原村の航空路調査の進捗でございます。

今年度調査につきましては、航空局の宿題でもございます制限表面、野羊山であったり、中山峠であったり、それを残したままで洲崎の滑走路に航空機が安全に離発着できるかどうか、その確認の調査をしているところでございます。

調査に当たりましては、航空専門家のヒアリングを実施いたしました。10月3日に中日本航空、それから11月16日に天草エアライン、それから11月21日に日本エアコミューター、それぞれパイロットプラス事務方にヒアリングをさせていただいております。議員の皆様方には9月の航空路説明会でご覧いただいたんですが、映像資料を見ていただいた上で、制限表面に係る位置関係を説明し、ヒアリングをしたところでございます。

いただいたご意見、3者とも共通するものをちょっとまとめましたが、野羊山あるいは中山峠とも残置されたとしても、運航上、視覚的に障害となるとは感じないと、あったとしても特に不安を感じることはないということが共通しております。

それともう一点、パイロットとして離発着で最も気にするのは横風であると。中山峠より野羊山が残置される場合、あるいは削土される場合、風がどのような状態になるのか、それを知りたいと、それを確認することが重要であるというご意見が共通して出たところでございます。

2点目の報告は、先ほども申し上げましたが、村議会への航空路説明会を9月27日に実施させていただきました。今までの航空路開設に係る経緯と現状について、説明をさせていただいたところでございます。

報告は以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

安藤重行委員。

○委員（安藤重行君） このパイロットたちの意見の概要ということですが、このときにはバードストライクの話とかというのは、全然出ていないんですか。出さなかったのか。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 今回の調査の趣旨は、もう、1点に絞って調査をしております。要は制限表面に係る障害物が残ったままで、航空機が安全に離発着できるかどうか絞った調査でございます。

ただ、バードストライクの問題は、当然、我々実務方も情報収集しておりまして、どの空港も共通の課題になっているという認識は持っております。小笠原でも、当然バードストライクの問題は出てくるというふうに認識しているところでございます。

○委員長（一木重夫君） 大丈夫ですか、安藤委員。

安藤重行委員。

○委員（安藤重行君） なぜこんなことを聞いているのかというと、前にもお話ししたんですけども、南島の上を通過するということがあるわけですね。一番怖いのは、5月から9月までは、あそこで営巣をしているという状況があるわけです。内地で言うバードストライクというのは、空砲とか何かで散らしたりとか、いろんな方法はやっているんですけども、営巣地はそうはいかないんですね。そこで子育てをしているので。その辺は、パイロットとか、そういう認識を持って話したのかなというふうに思ったから、ちょっと聞こうと思ったんです。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） バードストライクの問題は、各空港とも鳥を追い払うという観点での対応が目立ちますが、安藤委員がおっしゃったとおり、営巣地という問題も地域によっては抱えている課題でございます。小笠原もご指摘のとおり、そういった問題は抱えておりますが、ただ、それにつきましては、今解決をしなければいけない課題ではなく、その前にやるべき課題を、今一生懸命解決に向けて取り組んでいるというふうにご理解いただければと存じます。

○委員長（一木重夫君） 池田 望議長。

○議長（池田 望君） 3番の小笠原村に関する事で、パイロットからヒアリングを行ったことは今聞きましたが、意見の概要の中で、風の問題はあるにしても、削らなくても特に不安はないとか、特に問題ないと言っているのだが、これは、飛行場を設置するに当たって、航空法規上どういうふうに捉えるかというのは、このパイロットの意見と、航空法上、航空局がこれでいいと言うかということについて、何か関連がありますか。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 航空法を中心にした航空法令の基準に則して言えば、洲崎のあの位置に1,200メートルの滑走路を整備する際、制限表面としまして、野羊山で言えば標高45メートル以上は水平に切らなければいけないという考え方がございます。

南北に滑走路を造りますので、滑走路に進入する双方に障害物はあってはいけないと、その際、村の案だと、中山峠の一部がぶつかるという状況で、そちらも障害物があってはいけないということで、課題となっております。

その課題を検討会議で認識しつつも、同じ航空法で、最終的に国土交通大臣が航空機の離発着に安全だと認めれば、具体的な例として、野羊山を切らなくてもいいだとか、そういう判断ができる条項がございます。それゆえに、航空局の指導を仰いでいるという状態でございます。

今のところ、まだ正式な航空局の見解は出ておりませんが、ほかの空港の事例もあわせて考えると、野羊山のほうは、もしかしたらそのまま残せる可能性もあるかもしれないということで、村のほうでも調査をしているところでございます。

ただ、中山峠のほうは、制限表面のうち転移表面というところにぶつかっておりますので、そこは法令の法律の条文の中に、進入表面、転移表面に障害物があってはいけないと書かれておりますので、そちらのほうは、そのまま残すというのはなかなか難しいのかもしれないとは思っています。

ただ、同じ調査の中で、両面についてパイロットのご意見を聞いたという状況でございます。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 村長にお聞きしますが、この小笠原を応援する会、今回、第5回目の会合ということですが、数多くの議員先生が毎回出席してくれているみたいですが、村長から見て、第1回から比べて、建設的な意見も出てきているんでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 応援する会でございますので、意見は建設的だと思います。ただ、ここで言う航空路の開設ということがどういうものかということ、皆さん、だんだんご理解してきているので、ハードルの高さだとか、そういうことについては、ご認識が深まっているのではないのでしょうか。

いわゆる空路の開設だけとは違って、航空路の開設ということは、定期的航空路というこ

とでございますので、1,000キロという距離、それから小笠原の父島、母島の島の大きさ、それから国立公園法、そういうことがだんだんわかってくると、なかなか厳しい課題があるなということが、わかっていただいたということで、議論自体がこれからますます深まっていくんだと、このように感じているところでございます。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 村長の率直な感じでいいんですけども、この応援する会の会合というのは、小笠原空港実現まで年に何回か重ねていくと思われていますか。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 航空路の開設を応援するのも大きな課題でございますが、大きくは小笠原の振興を応援するという会でございますので、地方空港で東京都が主体となる航空路の、現行の航空路の開設については当然力にはなるとは思いますが、これだけの政治力があっても、必ずしもできるというふうな感じは、私はしておりません。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 村長も、多分毎回会合に出ておられると思いますので、必要性を説明して、なるべく早い時期の開設に向けて動き出せるように、ぜひともお願いしたいと思えます。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 特定の自治体にこれだけの国政の先生が応援するという形での会というのは、ほかに聞いたことがございませんので、本当にありがたいことだという受けとめと、これからも一生懸命、真摯にご支援の要請をしまいたいと、このように思っております。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 総務課企画政策室長に聞きたいんですけども、今回の小笠原航空路調査、そして意見の概要とありますけれども、今回の調査というのは、どういう形の調査をしたか、具体的に説明をしてくれますか。

例えば、運航上、視覚的に障害とならないとか、こう書いてありますけれども、例えば中山峠に実際に行って、自分の目で見て、状況を見て、こういう意見が出たのか、それともほかの方法で調査をしたのか、調査方法をわかる範囲で教えてください。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 先ほど報告の中にございましたが、9月27日に東京連

絡事務所の会議室で航空路の説明会をさせていただきました。そのときに、最後に見た映像、あれが今回の調査の中でヒアリングを行うという前提で作った映像資料でございます。

中身はご覧いただいたとおりのものでございまして、あれを各パイロットたちにご覧いただきながら、いろんなご意見をいただき、角度は自由に変更できますので、反対側からの映像を見せてほしいだとか、その意見に即して、そういったものを見ていただきながら意見を聞いたという調査のやり方をしたところでございます。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） そうすると、この調査に関しては、現地調査は考えていないということですか。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） それにつきましては、最初から想定はしておりません。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 映像だけで判断できない部分もあると思うんですよ。今後の調査の中で、こういう専門的な見地を持っている人が調査するのであれば、やはり現地も見ていただくことも必要ではないかと思えますけれども、どうでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 杉田委員のおっしゃる意図はよく理解するところですが、それぞれ調査の目的があるわけございまして、それに必要な調査を行うということでございます。

あわせて、同じパイロットに現地に来ていただくことを想定したときに、恐らく日程的に小笠原まで来ていただく時間はないというのが、各航空会社の実情かと思えます。

何かしらの指針を得られるような調査になるのであれば、例えば、現役パイロットではなく、パイロットの経験を持っている方に見ていただくということで、それは一考に値するかと思えますが、今のところはそういう状況で捉えているところでございます。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） そうすると、パイロット経験者は、映像の資料でもって、おおよそはつかめるという形で問題ないということですね。了解しました。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

稲垣 勇委員。

○委員（稲垣 勇君） 村は、我々も、この委員会も含めて、洲崎案で進んでいますよね。で

すけれども、この2番の国土交通省の委員会でも、衆議院の先生が質問した中で、大臣が、事業主体である東京都はまだ3案で検討していますよということを答えています。

これは、いつになったらこの1案に絞り込めると思っていますか。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 去年でしたか、村長から、今後の航空路の検討のあり方として、3案を1案に絞っていただきたいという旨は、東京都にお伝えしているところでございます。私もそれ以前から実務会議を続けていく中では、当然そういった発言も、してきたところですが、まだ東京都の中には、1案に絞るという状態になっていないという認識をお持ちなのかなというふうには、推測はしているところでございます。

ただ、実質的に航空局、環境局、東京都の環境局も含めた検討会議の中では、洲崎をベースに検討をしているというのが実態でございます。

○委員長（一木重夫君） 稲垣 勇委員。

○委員（稲垣 勇君） 島民の中でも、一体いつになったらこの3案が1案に絞り込めるんだろう。この委員会が11月16日、先月になされて、こういう答弁で、私ら、この委員会の委員としても、村がこれだけ絞り込んで調査しているのに、何で東京都はこの1案に絞り込めないんだろうと不思議に思うんですけれども、その辺はどうですか。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 率直に不思議だと思うのは、当然だと思うんですよね。でも、思い出してもらいたいんですが、小笠原が世界自然遺産に決まろうとしたときに、あれほど私が聳島のことを言っている、当時も4案と言っていたんですよ、聳島も入れて。

ですから、ここは冷静に、そういうことが、行政の仕組みみたいなこともあって、絞り込んで発表できるタイミングというのがあるんだということを、ひとつご理解いただいて、稲垣委員もぜひ住民の方にもその辺を周知できるように、ご協力をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 今、村長が申し上げたとおりだと思いますし、実務方で検討会議に出席している感覚からすれば、村長が4期目を迎えて2年後の返還50周年までには、東京都の一定の見解を示していただきたいと、東京都に申し入れたこと自体は今、関係機関が全部共有されております。一定の見解を示すということが、実務的にどういうことかと考えたときに、私は、その時点で少なくとも1案に絞られているというふうには理

解して、会議にも臨んでいるという状態でございます。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） 今回、9月27日に説明を受けて、大体村の計画が理解できた感じでございますが、前回の委員会で質問させてもらった内容で、P I、パブリックインボルブメントをいつやるのかということで、スケジュール的に非常に難しいという答弁があったと思います。その後、アンケート的なものだったらとるのではないかということ、樋口室長は言っておられたと思うんですが、前回アンケートをとったのが8年前ということですので、8年間島民の意見を聞かないでここまで来たといういきさつがあります。

その後、世界自然遺産にもなっている。この島は、数字的に言えば転入転出が1年間に300人、これは特殊な事情でしょうけれども、単純に考えれば300人かける8年で2,400人、島民が全員変わっていてもおかしくないぐらいの年月がたっています。要は皆さん、飛行場が欲しいのは事実だと思うんですが、どこまで自然を壊さないで自分らの島を守っていくかというのが、一番の関心事だと思います。

今の村の意見だとちょっと無理、という方たちもたくさんおられるのではないかと思います。早目にアンケートなり実施してもらって、そういった方たちの意見も吸い上げていただいて、1案に絞るなりなんなりという形で進めるのがいいのではないかという気がするんですが、いかがでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 以前この手のことにお答えをしたかどうか、わかりませんが、今、清水委員がおっしゃったことは、P Iもそうですが、ある程度具体的な姿が見えたときに、それを村民の方にお示しし、村民の方に決めていただくということだというふうに理解をしております。今まで長い間、この問題に関わってきて、必要性は別として、計画案の段階で、まだ熟してもいないものを表に出していろいろ意見を伺うと、中途半端な議論になっていくのと、今、清水委員がおっしゃったように、時間の経過とともに人も変わっているんだというようなことになりますので、きちっとした計画案ができ、それは一方的にはやりませんので、P Iというものもございますから、きちっと村民にそれを示し、村民のご判断を仰ぐと、こういうことになるんだというふうに思います。

ですから、村民をないがしろということではないというふうなことを思っているところでございます。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） P Iについては、流れ的に、村長の答弁で理解させてもらったんですが、実際今どうなんだというのは、せめて8年前にやったアンケート的なものみたいなことは、ぜひ実行していただければと思っております。その辺はまた執行部のほうで検討していただけるのかどうかかわからないですけども、よろしくお願いします。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） もう一度改めて、8年前のアンケートに触れますが、8年前のアンケートは、それまでの航空路の、東京都の検討経過を踏まえた上で、航空路の必要性について、必要かどうかという1質問だけでございます。

先ほど村長が申し上げたとおり、具体的な絵がまとまれば、またそのことに対して、P Iということだけでなく、東京都はその案に対して村民の方がどう思うかというのは、恐らく何らかの形で問うことになるんだろうというふうに、実務的にも考えているところでございます。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

鯨江 満委員。

○委員（鯨江 満君） 以前にも関わってきた者として、今回もまたこれでだめになるのではないかというようなものは、私の中から消えないんですね。航空路のこの問題というのは、現在ご家庭で中継を見ている方たちも、関心はかなり薄れているように私は感じるわけですね。

私自身も、こうして国会で取り上げていただいて、委員会の中で上げていただいて、そして今他の委員からも質問のあったような、いろんなことがあるかとは思いますが、以前は、第三種空港がだめならば、最終的には村営というのはおこがましいですけども、何かそういう緊急の空港滑走路でもいいんじゃないかというような、最後の案というような意味合いから、この3番の小笠原村に関する事ということで、村独自の調査をしているかと思うんですね。

そのような、最悪といったら変ですが、そういうようなことがまた起きたらということでは、その3の1の意見概要のところでの、風が心配だよというようなことをパイロットたちは言っているということなんで、その辺は現在のコンサルタント含めて、気象というか、そういう調査、今いろんなシミュレーションが、科学的なものでできるはずですよ、CGというか、コンピューターで。できる調査には限りがあるかと思いますが、それを粛々とこれから先も村の調査ということで、進めることが重要だとすごく思いますので、海域

も含めて、ぜひともやっていっていただきたいと思いますがいかがですか。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 過去に村営ですとか、いろんな話が出たというのは承知しております。その上で、今回の村の調査はあくまで1点に絞った調査で、パイロットが風を気にするというのは、全てのパイロットに共通することだろうと思いますし、どこかの空港で離発着するにしても、風というのは離発着において非常に気をつけなければいけないファクターなんだろうということだと理解しております。

その上で、洲崎で気象調査というのは、2年後に東京都に一定の見解を出してもらうための風のデータとしましては、東京都が過去に行った風のデータがございますので、多分それをもとに検証していくことになるんだろうというふうに感じております。

2年後に一定の見解が出た後、村が気象調査をするような必要性がある場合に、そういった調査をやるやらないの検討はしたいと思いますが、今のところはまず2年後に向けて、必要な調査を確実に実施していきたいというふうに考えているところでございます。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

私のほうから、2点、お伺いいたします。

小池都知事が来島されたときに、洲崎を案内して、また記者からぶら下がりの取材を受けていますけれども、そのときの発言を、主要なもので構わないので教えてください。

副村長、渋谷君。

○副村長（渋谷正昭君） 知事来島の際には、村長が入院中ということで、私と議長が主に案内をしたところです。補足があれば、ぜひ議長からもお願いをしたいのですが、まず公式にぶら下がりの取材で答えたポイントとしましては、一つは急患が出たときに運ぶ手段がないと聞いている、命を守るという観点から空港の必要性を考えることは重要だと。

一方でニーズとコスト、これからの島部全体の計画を練り直す必要がある。また自然を保ちながら観光を組み合わせるルールを守り、発展させる、その上で答えを出したいというようなことを、横で聞いておりました。

洲崎の現場では、今回は主に現地を知ることがメインでございましたから、東京都の担当者から、いわゆる洲崎案も含めた説明をされていたのと、横で聞いていて1点私から補足したのは、洲崎そのものが既に自然破壊というと語弊がありますが、自然を改変して飛行場にしたこと、それから周囲にある木というのは、モクマオウという外来種の木が多いというようなことを、お話しした覚えがございます。

また車中では応援する会のお話もしましたが、二階先生からもいろいろお話を聞いていますということも、自らお話しになっておられたのを聞いています。

あと、洲崎では急に「久しぶりに海の音を聞いたわ」と言って、海岸のほうに歩かれていて、波音を聞いて、少しのんびりされたというか、そんな雰囲気を感じたところです。

以上でございます。

○委員長（一木重夫君） はい。了解しました。

あともう一点、お聞きしたかったですけれども、先日パキスタンのほうだったと記憶しているんですけども、飛行機が落ちまして、またATR42が墜落したという報道がありました。最近台湾でも2回続けて墜落があったりして、別の記事でATR機は大丈夫なのかという、そういう記事も先日、目にしました。

台湾ではパイロットの操縦のミスもあったんですけども、そのパイロットの操縦のミスの前に、片側のエンジンが1個とまってしまっているんですね。そういうニュースを聞くと、若干不安になる部分もあって、またかつてボンバルディア機の、事故が続いたときのような雰囲気になってしまうのではないかと、物すごく危惧しているんですけども、その辺、何か情報はお持ちでしょうか。

総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 今お話に出ました、台湾での高速道路すれすれでぶつかった事故の後、私も一木委員長と同じような感触がありまして、早速村の航空路担当の参与である清水さんにご連絡をして、ATR機の過去の事故について調べていただきたいと。それぞれの事故について、どういう結果が報告されているのか。知りたいのは、要は人為的事故なのか、それとも整備上の事故なのか、構造的な事故なのか、そういったところを調べてもらいました。

ペーパーでもらって、何年前までさかのぼったかわからないんですけども、20ぐらいの事故例がずらっと並べてありまして、説明としては、そのほとんどが人為的なミスであるということで、今のところ航空業界をよく知る方の捉え方としても、ATR機そのものの何か構造的な問題があるということはないということで、参与からは報告を受けているところでございます。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） まず事故が起きたときに、それぞれが関心を持ってそのようなことをきちっと調べるということは、大事だと思っております。

と同時に、鉄の塊が空を飛ぶのかよという単純な疑問から発する飛行機材、どの機種もあると思いますが、どのぐらいのパーセンテージで実際に事故が起きているんだろうか、それは人的なミスなのかとか、調べていけばいろんなことがございますけれども、例えばオスプレイを思い出していただきたいんですが、音がうるさい、危険だと、報じられていたものが、直接この島に来たとき、皆さんはどう思われたでしょうか。通常、水上飛行艇とか、硫黄島からのヘリを経験している我々には、あれがうるさいと感じたのかというようなこと。

おこがましいですが、村民から付託をされてこの場に立っている我々は、冷静な判断というのをきつと求められていると思います。ですから、議員の皆さんも、そして私を筆頭にした役場の職員のみならず、きちっと調査するところ、調べるところは調べて、冷静な判断をもとに、村民の安全・安心を図っていくというところに、大きな意味合いがあるというふうに思います。せっかくのご質問ですので、一言答弁をさせていただきました。

と同時に、本日の午前中、他の会議で、人だけではなくて動物の生命というものの大事さというようなことが議論になりました。人は過去の歴史の中で先人たちへの思いがある。日本人の我々は捕獲をして、食べてきて、命をいただいたものについて、昔は塚というお墓をつくって感謝の意を表しました。貝塚、鯨塚、そういうふうな民俗ですね。

ですから、それは外来種であろうと固有種であろうと、そういう大切さ、また延々と続いてきているこの歴史の重み、大切さというものを、やっぱり伝えていかなければいけないんだと思うんですよ。

そうすると、航空路がというより、この空路がなぜ小笠原に必要なのか、必要でないのかということ論じるときに、自ずから一つの大きな論点になると思いますので、我々はやはり感情とかそういうことではなくて、私は特に自分にそういう諫めをしているんですが、冷静にそれらのことも勘案しながら、この問題に取り組んでまいりたいと、こういうふうに思うところです。

また皆さんにも取り組んでいただきたいと、一言多かったです、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長(一木重夫君) 異議なしと認めます。

◎その他

○委員長(一木重夫君) 次に、日程第2、その他事項で何かございますか。

(発言する者なし)

○委員長(一木重夫君) 質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長(一木重夫君) 異議なしと認めます。

◎閉会中の継続調査について

○委員長(一木重夫君) 次に、日程第3、本委員会の閉会中の継続調査についてお諮りします。

お手元に配付の事件調査のために閉会中の継続調査の申し出をしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長(一木重夫君) 異議なしと認めます。

よって、閉会中の継続調査を申し出ることに決定しました。

◎閉会の宣告

○委員長(一木重夫君) お諮りします。

本日の議題は終了しましたので、これをもって本委員会を終了したいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長(一木重夫君) 異議なしと認めます。

よって、本委員会を閉じます。

これをもって、小笠原航空路開設推進特別委員会を閉会いたします。

(午後2時45分)